

学校法人安達学園
中京短期大学
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

中京短期大学の概要

設置者	学校法人 安達学園
理事長名	安達 元成
学長名	鈴木 尚代
ALO	篠原 紘一
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	岐阜県瑞浪市土岐町2216

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
健康栄養学科		70
保育科		100
	合計	170

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

中京短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 7 月 11 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

学校法人安達学園の建学の精神は、『学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ』と謳い、この精神に基づき、教育理念を『真・善・美・健・富』とし、学園の新しい使命として『21 世紀という冒険の時代に、果敢に挑戦する人材の育成』（実社会へ「真の実践力」の輩出）を掲げた。これに基づき当該短期大学全体並びに健康栄養学科及び保育科の教育目標が定められ、それが確立しかつ明示され、それに基づく教育活動が展開されている。中でも建学の精神が、教育課程の中に必修科目として設定され、全学の教育活動の基本として具体化されていることは特記に値する。

教育内容に関しては、建学の精神を軸に、学生のニーズにこたえられる内容の改善が図られかつ専門科目外の資格取得科目も開講されている。少人数ゼミを導入した教育、現場ニーズを見据えた特色ある取り組みを行っている。

教育の実施体制としては、恵まれた環境のもとで、講義室、実習室、実験室等も充足し、適切に整備されている。教育目標の達成度及びその教育の効果に関しては、資格・免許取得の実績も両学科ともおおむね 100 パーセントで 2 年間の教育成果は顕著である。また専門分野への就職も約 90 パーセントで教育の達成度及び効果も十分と判断される。

学生支援の領域に関しても、少人数担任制で十分な学生生活支援を行っている。教員の研究領域に関しては、個人研究より共同研究面での成果があがっているので、今後共同研究を全学的に展開してその活性化が図られることが期待される。

社会的活動領域に関していえば、当該短期大学の特徴は、ボランティア活動等、地域社会への貢献に非常に熱心に取り組み、その成果も顕著にあげている点であり、この領域では高く評価される。

財務領域では、「中期経営計画（2006－2010）」が策定されていたが、極端な学生数の減少のため、新たな「黒字化計画」が策定され、健全化のための抜本的な対策が力強く図られている。

当該短期大学では、自己点検・評価活動の実施体制の確立とともに、大阪城南女子短期大学との相互評価を実施し、その成果を踏まえて「改革委員会」が設置され、教授会での

討議案の作成が具体的に図られている。財務上の課題解決のための「黒字化計画」と共に本格的な改革・改善が図られている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 専門科目外の資格が取得でき、学生のニーズにこたえられる科目開設を行っており、学生が意欲的に学ぶ環境が整っている。また、両学科共通の総合演習では、少人数ゼミで専任教員全員が担当し、現場ニーズを見据えた特色ある取り組みを行っている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 「フレッシュマンホームカミングデー」の開催等も含め、リカレント教育への取り組みも意欲的で、卒業後も手厚く面倒をみている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 少人数担任制で専任教員のクラス担任とキャリア支援部の副担任が中心となり学生生活を支援している。
- 競技会や展示発表会で優秀な成績をあげた学生、学業優秀者等に対する表彰制度がある。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地元小学校・中学校での調理実習授業、地元市への支援事業、あるいは幼稚園・保育所、児童養護施設、知的障がい者施設の催事への参加など多岐にわたるボランティア活動が実施されている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 平成19年度に、大阪城南女子短期大学と相互評価を行い、その結果をいち早く平成

20年度の施策に取り入れ改善を図っている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善ができれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスは作成されているが、科目によって記述にばらつきが散見される。単位数の記述、全科目にわたる記述、教育課程表とシラバスの整合性等、学生に分かりやすいシラバス作成の改善が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 短期大学全体の入学・収容定員の充足状況が低いので、充足率をあげるように努力されたい。
- 余裕資金はあるものの、学校法人全体・短期大学部門の収支バランスの改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

学校法人安達学園の建学の精神は、『学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ』と謳い、この精神に基づき、教育理念を『真・善・美・健・富』とし、学園の新しい使命として『21世紀という冒険の時代に、果敢に挑戦する人材の育成』（実社会へ「真の実践力」の輩出）を掲げた。これに基づき当該短期大学全体並びに健康栄養学科及び保育科の教育目標が定められ、それが確立しかつ明示され、それに基づく教育活動が展開されている。中でも建学の精神が、教育課程の中に必修科目として「建学の精神Ⅰ～Ⅳ」が設定され、全学の教育活動の基本として具体化されていることは特記に値する。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育内容に関しては、建学の精神を軸に、平成20年度の改組及び平成21年度の教育課程の変更によって、学生のニーズにこたえられる教育内容の改善が図られている。専門科目外に資格が取得でき、学生のニーズにこえられる科目を開設し、学生が意欲的に学ぶ環境が整っている。また、健康栄養学科、保育科共通の総合演習においては少人数ゼミで専任教員全員が担当し、現場のニーズを見据えた特色ある取り組みを行っている。

授業の単位認定は適切に行われている。なお、学習評価は科目によって偏りがあるので、評価基準設定も必要であると判断される。シラバスの記述に関してもばらつきが散見されるので、学生に分かりやすいシラバスの作成が求められる。各種アンケートを定期的を実施し、その結果をフィードバック及び活用して授業内容や教育方法の改善に対する体制をとり、学内外での研修やFD活動とSD活動が共同して実施されており、その意欲的な取り組みは評価できる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織等について短期大学設置基準で定める 18 人を超える 23 人の教員を配置し充足している。年齢構成も適正に構成されている。

校地、校舎の面積は、同設置基準を大幅に超える面積を保有している。恵まれた環境のもとで、講義室、演習室、実験・実習室等も充実し、適切に整備されている。教育環境として緑が多く、学生への安全性を十分に配慮し適切に整備・活用されている。図書館の蔵書数、図書館の広さも十分である。ただし、図書検索用コンピュータが 1 台しか設置されていないので複数設置が望まれ、AV 資料等も図書館に移行されると更に整備されることになる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

授業の単位取得状況は、良好であり、学生が課題を達成するまで再試験、補充指導を実施しており、教員の努力がうかがわれる。資格・免許取得の実績が健康栄養学科、保育科ともおおむね 100 パーセントで、2 年間の教育成果は顕著である。専門就職の割合は、両学科とも極めて良好で、卒業生の就職先からの評価はおおむね良好で、達成度及び教育の効果をあげている。フレッシュマンホームカミングデーの開催等も含め、リカレント教育についても積極的で、「中京短期大学保育研究会」を立ちあげ、学生の卒業後への取り組みへの努力をはらっている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学案内、ウェブサイト在建学の精神・教育理念や教育目標、望ましい学生像が明示されており、入学者選抜の方針、選択方法も募集要項に分かりやすく記載されている。広報・入試事務は渉外部が一括管理体制で適切に行っている。

オリエンテーションは適切に行われ、『学生必携』は学生に分かりやすい内容に工夫されている。クラス担任制度を設け、基礎学力が不足する学生に対し個別指導などを有効に実施している。少人数担任制でクラス担任とキャリア支援部の副担任が中心となり学生生活支援をしている。また、就職支援のためのキャリア支援部を設置し、学生の支援を実施している。

社会人学生への支援として、平成 21 年度入学生より授業料半額免除の制度を設けている。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究業績には個人差があり、ばらつきが見られるが、社会活動については多くの教員が実績をもっている。学科等の共同研究は確実に成果をあげているので、さらに、課題テーマの拡大等を図り全学的な研究の活性化が期待される。その具体策として、社会的活動に関して多くの教員が実績を持っているので、それを報告書にまとめ研究成果とする

ことを期待する。また、教員の研究室、パソコン等の情報処理機器、インターネット等の施設設備は整備されている。共同研究活動を含め、研究活動に相応の研究費支給の見直しが望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

建学の精神、教育理念の具現化のためボランティア活動を単位化し、地域社会への貢献を具体的に果たしている。学生の社会的活動については食育セミナーなどの開催、地元小学校・中学校への実習、地元市への支援事業など多岐にわたるボランティア活動を実施し、その成果を十分にあげている。当該短期大学の特徴は、ボランティア活動等、地域社会への貢献に非常に熱心に取り組み、その成果も顕著にあげている点である。

評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人の管理運営体制は、理事会及び評議員会のほか、平成 21 年度からは最高経営部会を設置して、理事長のリーダーシップのもとに運営が行われている。教授会等の短期大学の運営体制は学長及び副学長が中心となり、教育・研究上の事項について教授会で審議が行われ、最終決定について学長のリーダーシップが発揮されている。また、各種委員会も機能的に設置されている。学校法人の管理運営体制及び短期大学の管理運営体制は共に確立している。事務組織も整備されており、事務部門の適正な規模、運営の効率化を図るための取組みがされている。教職員の学内での情報共有もメールで図られており、学生との関係も良好である。SD 活動においても活発に取り組みがされている。教職員の就業について規則等が整備され、順守されている。

ただし、急な機構改革などにより、学校法人と教職員、教員と事務職員の間コミュニケーションの欠如を起こさないよう配慮が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

「中期経営計画（2006－2010）」が策定されていたが、極端な学生数の減少のため、新たな「黒字化計画」が策定され、事業計画及び予算について審議決定され、執行部会への連絡、担当者への伝達がなされ、健全化のための抜本的対策が図られている。

また、予算執行、監査法人の監査結果の表示、資金の保有と運用は「資金運用規程」に基づき適正に行われ、財務情報も学園報において適切に公開されている。施設設備の維持管理は適切に行われており、省エネルギー対策などについても計画的な取組みがなされている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価活動の実施体制の確立と共に相互評価を実施し、その結果を踏まえ、改革・改善に向けての「改革委員会」が設置され、教授会での討議案の作成に入っている点

は注目される。財務上の課題解決のための「黒字化計画」と共に、本格的な改革・改善が図られつつある。平成 19 年度に、大阪城南女子短期大学と相互評価を行い、その結果をいち早く平成 20 年度の施策に取り入れ改善を図っている。